

日見中学校平和宣言

今から76年前の1945年8月9日11時2分、長崎の上空で1発の原子爆弾が炸裂しました。この原子爆弾が放出した熱線、爆風、放射線により、多くの人々の尊い命が奪い去られ、大切なものすべてが破壊されました。今現在も、未だに行方不明のままの方や、放射能による後遺症で苦しんでいる方が多くいます。

2021年の夏、日本において、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中ではありましたが、東京オリンピック2020が開催されました。世界各地から、難民選手団を含む206の国と地域が参加しました。また、8月24日からは東京パラリンピック2020も開催予定となっています。このオリンピックやパラリンピックは、世界平和の維持を基本理念として掲げています。

しかし、今もなお、世界には1万3000発以上の核兵器が存在しており、日本も多くの兵器を保有しています。「核兵器の保持が誇りである」としている国や地域もあり、世界中で戦争、平和に対する意識や認識の差が生まれているように思います。今この瞬間にも、世界のどこかで紛争が起こっています。ミャンマーにおけるクーデター、アメリカと中国の対立関係などには、全世界が注目しています。身近な出来事に目を向ければ、いじめや差別、SNSにおける誹謗中傷などの人権問題が起こっています。このような問題を解決するために、世界中で多くの取組が行われています。しかし、誰もが安心して生活できる環境が保たれていないのが、今の世界の現状です。

そんな中、私たち日見中学校では、各学年ごとにテーマを設定して平和学習を行いました。

1年生は『知る』をテーマに、原子爆弾と被爆遺構について、図書やインターネットで詳しく調べ、一人ひとりが新聞にまとめました。その中で、原爆がもたらした悲惨な状況や核兵器の恐ろしさを改めて感じました。また、その状況にくじけることなく、強い意志を持って復興をめざす人々がいたことや、戦争や核兵器の使用を二度とくり返さないという多くの人の強い決意を知りました。

2年生は『深める』をテーマに、沖縄戦における悲惨な状況と、現在につながる深刻な課題について学び、一人ひとりがレポートにまとめました。その中で、何の罪もない多くの人々の尊い命を奪ってしまう戦争は、絶対に繰り返してはならないという想いを新たにしました。

3年生は『発信する』をテーマに、「ナガサキ・ユース代表団の方との活動」、「バター戦争を用いた紛争の学習」、「平和ナガサキを用いた核兵器についての学習」、「紛争と核保有、平和活動に関するレポート作成」に取り組みました。これらの活動をとおして、世界の現状に目を向け、世界中にある核兵器の多さや紛争によって多くの人々の命が奪われていることを知り、私たちが今まで学んできたことを次の世代に伝えていく大切さを強く感じました。

私たちは、平和学習をとおして、『これから先も原子爆弾の恐ろしさを伝え続け、被爆という事実を風化させないこと』、『世界から核兵器を無くしていく努力を続けること』、『現在の世界の情勢に関心を持ち、戦争や紛争が起こらない平和な世界の実現を求め続けていくこと』が必要だと考えました。

最後に、私たち日見中学校は、次の3つのことを努力していくことをここに宣言します。

- 一、対話を大切にし、お互いを理解するように努めます。
- 一、お互いの個性を認め合い、絶対にいじめや差別をしません。
- 一、広い視野を持ち、平和について学び続けます。

2021（令和3）年8月9日
長崎市立日見中学校 平和学習実行委員会